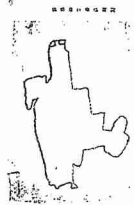


横田基地問題を考える会ニュース

第4号 (2009年10月)



連絡先 (電話&FAX) 0428-22-6273 岩田

「会」のホームページ yokota-peace.sunnyday.jp

「横田基地問題を考える会」

第2回総会について

「横田基地問題を考える会」第2回総会が四月二十五日、立川市民会館で開催。結成一周年のこの会では、平和問題研究家の平山武久さんが「北朝鮮、ミサイル防衛、横田基地と憲法九条」と題した記念講演を行いました。防衛大臣が三月二十七日、北朝鮮の飛翔体に対し破壊措置命令をだし、イージス艦を日本海中部へ、ペトリオットPAC-3を東北地方と首都圏に展開した異常な事態が何を意味するのか、大いに勉強になった。次いで活動報告、会計報告を行い、また、活動方針を提案、意見交換を行った。

学習講演会

「全朝鮮半島の非核化と迷走する日本外交」

講師 高 演義 氏 (朝鮮大学校非常勤講師)

横田基地問題を考える会は九月十二日、昭島公民館において表題のように講演会を開き、約五十名の参加がありました。

高演義(コウ ヨンイ)氏は四月五日の「人口衛星」打ち上げと、五月二十五日の核実験に焦点を当てて話されました。

当時の日本政府「麻生政権はマスコミを動員して「北の核とミサイルの脅威」を大々的に煽りたて、地方自治体を巻き込み軍の指揮の下にPAC3積載車

両やSM3搭載イージス艦を配備するのみならず、「敵基地攻撃」や「核武装」の必要性までヒステリックに叫びました。これまでとは一線を画すこの飛躍した現実を前にして当会は、マスコミが一切報じない北朝鮮側の意見も聞いてみて考えることにしたのです。それは自画自賛かもしれませんが、大胆にして画期的な催しであったと言えるのではないのでしょうか?

(以下講演内容等は裏面に掲載)

2010年9月、自衛隊航空総隊司令部が府中から横田に移転してきます。

「横田基地問題を考える会」と「横田基地の撤去を求める西多摩の会」では多くの団体・個人とともに、大きな「共同行動」を起こす必要があると考えています。

それに向けての第1回目の「準備会」を10月9日(金)午後7時から昭島公民館(第1会議室)にて開催します。是非ご参加を、お願いします。



国道十六号線沿いの

「横田すわりこみ行動」

に参加してきました

「横田基地の撤去を求める会」は、国道十六号線沿いの福生市フレンドシップパークで、今年四月から毎月第3日曜の午後2時間、横田基地の撤去と航空自衛隊総隊司令部の移転に反対して、抗議の座り込み行動を始めました。

横田基地問題を考える会からも七月には岩田、近森、私が、八月には岩田、私が参加しました。

三十人ぐらいの人たちが、音楽を流しながら、横断幕をもって浴道に座り込んで、行き交う車や歩行者に、マイクで呼びかけたりビラを渡したり、参加の思いをスピーチしあったりして、和やかな抗議行動という感じでした。

実際、お互いの体調を気遣って、適当に交替しあいながらなので、高齢者でも、無理なく参加できる座り込みです。

「西多摩の会」では、横田基地の撤去の日まで続けると言っておられるので、私は、これからも都合がつけば、気軽に参加して行こうと思っています。(盛岡 暉道)

(高 演義氏の講演内容)

高氏は先ず自己紹介を行いました。「当初は日本で、朝鮮語でフランス語を教えていた」が、「日本のマスコミが100%近く事実を伝えない」現実に直面して「朝鮮半島にルーツを持つ者としてこういう問題を考えざるをえなかった」と。そしてこう切り出しました、「オバマが核廃絶演説を行った一方、北朝鮮が核保有宣言を行ったことを後世の人は信じられないと言うことだろう。なぜなら本来なら北朝鮮こそ非核を望んでいるからだ」。

高氏は最初に、北朝鮮を非難する国連安保理に対して、「主権平等と内政不干渉の原則を明記する国連憲章」や「平和目的の宇宙利用・開発権をすべての国に認める宇宙条約」に違反していると批判する。そして、日本政府は韓国の人工衛星が日本の上を飛んでも何も問題にしない(註1)。北朝鮮が原発を持つとすると原発を持っている国がダメだと言う(註2)、というようにアメリカや日本の「ダブルスタンダード」を明らかにし、北朝鮮は「自主的に平和国家」をしているにすぎないと述べました。

高氏は次に、国連安保理は「六者協議」の精神、すなわち「(国家主権)の相互尊重および平等の精神」に反していると批判しました。そして「六者協議」が暗礁に乗り上げたのは、「共和国孤立化抹殺政策」を実施している日米が、「朝鮮半島」非核化の実現が「いずれ在韓、在日米軍の核へと論議が及ぶこと」を恐れたからだ」と述べました。

高氏はさらに論を進め、安保理には「核5大国でもある拒否権5大国」の「支配構造」が残っていると述べ、国連とは「世界連邦政府」でもないし「ただその時々種々の主権国家群の動態を鏡のように反映して見せるだけの流動体」にすぎないと述べました。

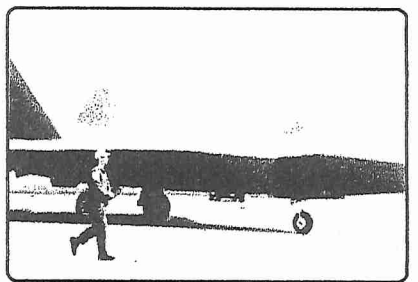
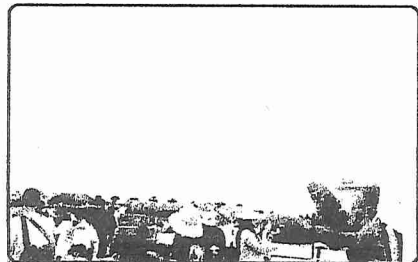
高氏は、麻生内閣の「戦略的意図」についても述べました。①北朝鮮を利用して政権浮上を狙うこと②過去の清算をあくまで回避すること。「過去」とはもちろん戦前日本政府が行った朝鮮人の強制拉致(強制連行)のことであり、「従軍慰安婦」のことである。③日本の軍事大国化を実現したいということ。「有事」がほしいし、改憲し9条を葬り去り国民意識の地ならしをしたい。

そのうえで高氏は、「植民地主義的日本と帝国主義的米国」との「死闘の歴史」を繰り広げてきたこの一世紀を経て、「社会主義アレルギーに朝鮮人アレルギーが加わって」「民族差別的状況」が現出している今、北朝鮮にとって「半島の非核と平和」は「骨肉と化した悲痛なる願い」であると結びました。

(註1) 人工衛星の発射数は、2008年現在、ロシア3228個、アメリカ1815個、中国99個、フランス54個、イギリス35個。

(註2) 原発の保有数は、アメリカ103基、日本63基、ロシア34基、韓国28基、中国19基。

全印総連が横田基地見学



(写真は 羽村平和委員会提供)

八月二十二日(横田基地友好祭)に米軍基地に入れるので事前に学習したいとの申し入れが全国印刷出版労組よりありました。当日午前中、当会より橋本、清水、西多摩の会より高橋さんが出迎えました(福生さくら会館)。まず、ミニパンフ「横田基地と自衛隊のいま」に沿って、横田が従来の輸送、中継という役割からミサイル防衛の中核、また戦争司令の基地に変わりつつあり、自衛隊の移転により、日米の戦争準備が緊密に進められることになる(報告(清水)。次いで高橋さんが自作の写真パネルを使って、基地の概要や最近の動きなど説明されました。最後に橋本さんからは、長沼、

恵庭事件での実体験から「共同・連帯」が反横田の運動にも重要と話され、転じて「国民学校一年生の会」が韓国でも準備中であること、宗教者の反核平和の国際運動や「九条の和」の展望などが格調高く語られました。昼よりいよいよ基地に向かいましたが、朝から人の列は切れ目なく、宣伝力のすごさをあらためて感じた次第です。関東中部一円の自衛隊基地からの輸送機、戦闘機等がズラリと展示され、隊員募集のブースも設置され、9条違反の勢いを増していました。この日の人気は嘉手納より飛来したF22で、本邦初公開のステルス戦闘機の前に人垣が。ハワイ・ヒツカムより飛来の

C17の胴体内でこやかに出迎えてくれた日系米兵に「私たちは軍事友好祭ではなくて、いつの日か、日米平和友好祭をと思っているのよ。その日まで元気でいてね!」。握手に応じた青年は明るい笑顔でした。この日の参加者は組合の予定以上の三十名程で、私たち三名より参考となる資料を手渡しました。とにかく猛暑でした。なおこの憲法平和フィードワーク担当の平木さんが当会に入会されました。

平成21年度昭島市文化祭 平和展

日時 10月23日(金)～25日
場所 昭島市公民館(1階)
○10月24日(土)1時30分～
(学習講演会)

「北朝鮮と横田基地と憲法9条」
講師 平山 武久氏
(平和問題研究家)